

2024年の飲酒運転中の交通事故は前年比29件増の4,446件

過去10年間の飲酒が絡む交通事故の発生は、図1に示したとおり、2015年以降減少傾向でしたが、2022年以降、増加ないし横ばいの傾向となっており、2024年中の事故発生件数も昨年比で僅かに増加しています。特に2020年から2022年までの間、コロナ禍の人の動向変化による事故自体の発生が減少したことを鑑みると、2023年以降の数値は、コロナ下以前の件数に戻りつつあることがうかがえます。

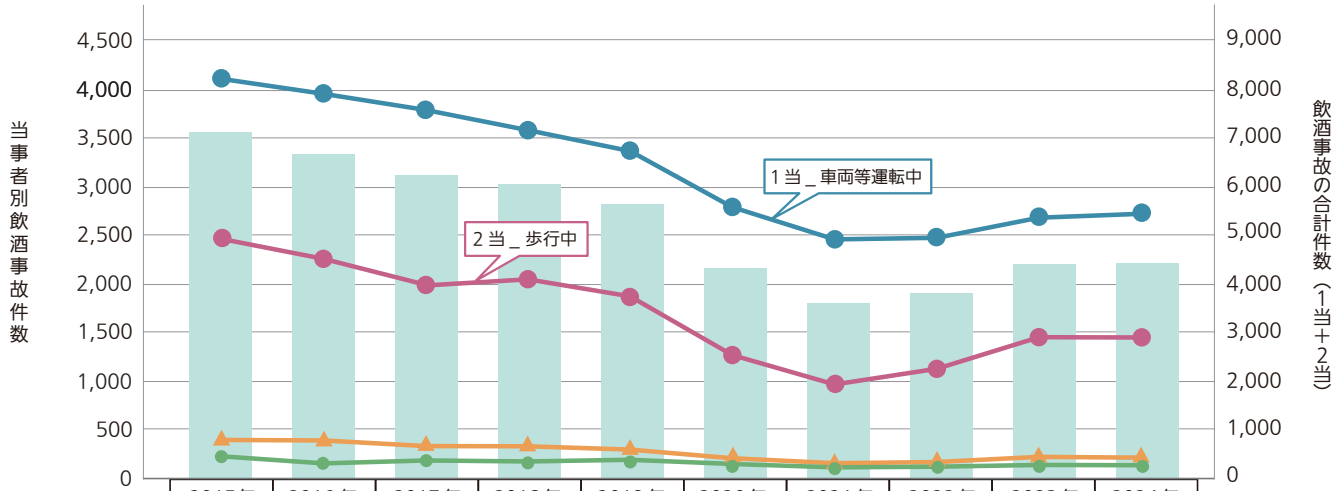


図1 飲酒が絡んだ事故件数(死傷事故)の推移(2015-2024年)

飲酒事故は全事故と比較し重大事故に繋がりがやすい傾向にある

交通事故全体と飲酒事故を傷害程度別に比較したところ、図2に示したとおり、交通事故の約90%が軽傷事故であり、重大な損傷(死亡・重傷)を負った事故は10%にも満たないことがわかります。これと比較して、車両運転者が飲酒をして起こした事故では、死亡や重傷を負った事故が20%(全事故時の約2倍)、飲酒した歩行者が関与した事故となると37%(全事故時の約3.7倍)になります。

これらの結果から、飲酒が絡んだ事故ほど死亡・重傷化しやすく、重大事故に繋がりがやすい傾向にあり、特に歩行者に飲酒が絡む事故ほど、その傾向が高いことがわかります。

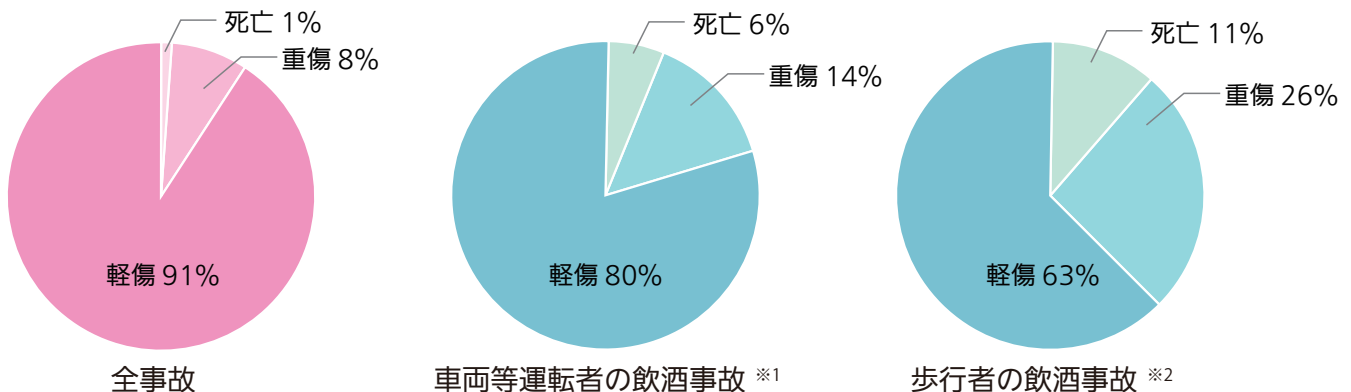


図2 全事故および飲酒事故の事故内容別の割合(2015-2024年 合算)

※1 1当車両等+2当車両等
 ※2 1当歩行者+2当歩行者

車両等運転者の飲酒事故の特徴

車両等運転者の飲酒事故の特徴を見えます。まず、車両別に見てみると図3に示したとおり、多くは四輪車運転中に飲酒事故が起きていることがわかります。

また、二輪車や自転車は周囲に身体が晒されていて負傷リスクが高く、走行時のバランスに留意して走るなど、四輪車に比べてより安全な運転が求められますが、飲酒が絡む交通事故も一定数発生していることがわかります。

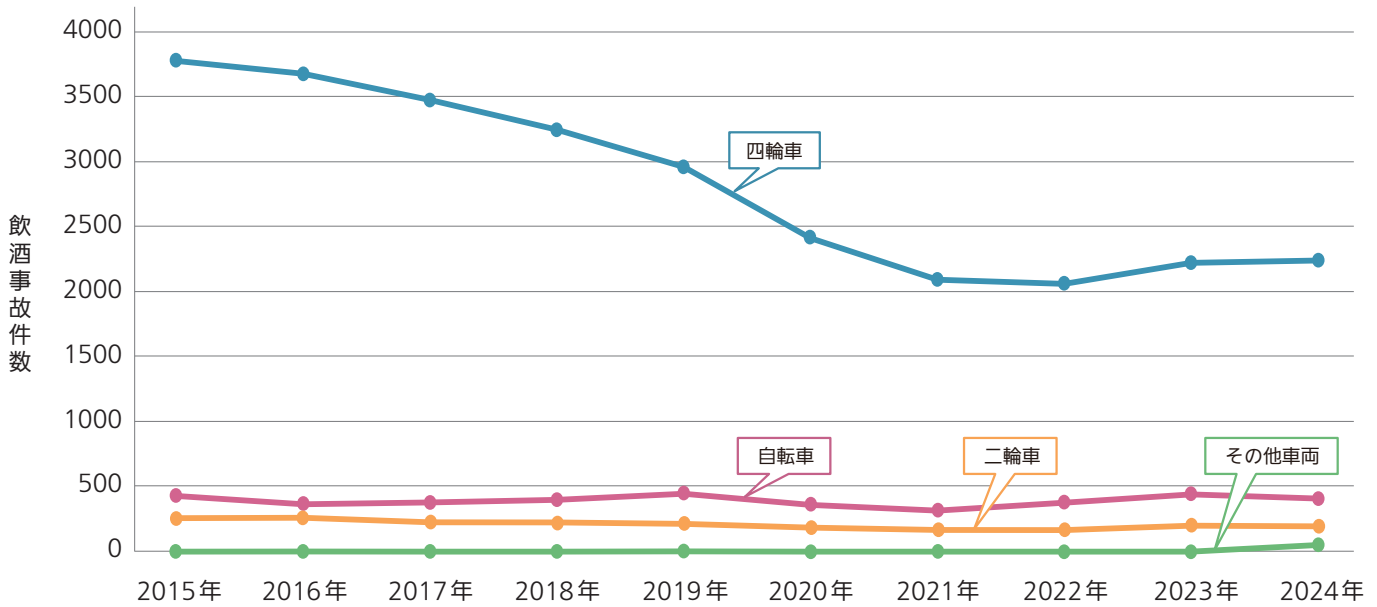


図3 状態別の飲酒事故件数（死傷事故）（2015-2024年、1当+2当）

次に、車両等運転者を年齢別に見ると、図4に示したとおり、運転免許取得直後や取得後間がないと思われる20歳代の事故が最も多く（627件）、続いて50歳代、60歳代以上、40歳代とつづきます。

また、月別では、図5に示したとおり、忘年会などお酒を飲む機会が増えると予想される12月が最も多く（316件）、続いて行楽期の10月や11月、夏休み時期の8月、7月とつづきます。

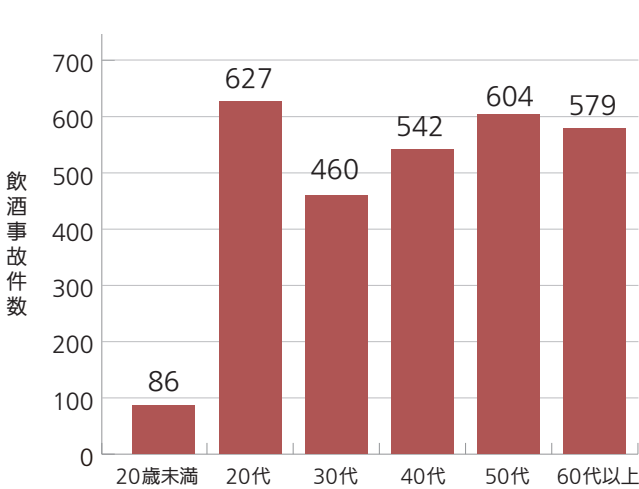


図4 車両等運転者の年齢層別の飲酒事故件数（死傷事故）（2024年、1当+2当）

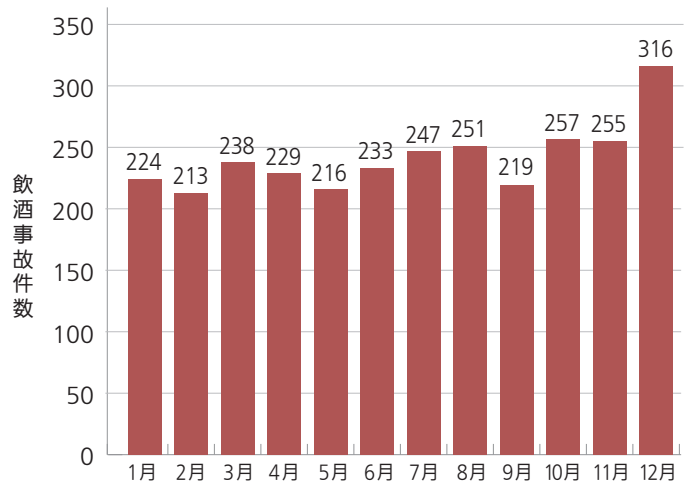


図5 車両等運転者の月別飲酒事故件数（死傷事故）（2024年、1当+2当）

歩行者の飲酒事故の特徴

次に、歩行者の飲酒事故の特徴について見てみます。図6は、歩行者の事故時の行動について、飲酒の有無に分けて示したものです。飲酒状況に拘わらず、双方とも横断中の事故が最も多いことがわかります。相違点としては、飲酒なしの時に無かった路上横臥が、飲酒時の事故では12%発生しており、路上停止中であつた事故も2%増えています。

飲酒時の特徴として、お酒の影響により酔いつぶれ又は徘徊中に道路に寝る、ふらふらと立ち尽くしている時の事故が増えていることが想像されます。

次に年齢別に見ると、図7に示したとおり、60歳代以上が最も多く(393件)、続いて40歳代とつづきます。また、月別では、図8に示したとおり、車両等運転者と同様に忘年会などが予想される12月が最も多く(191件)、続いて3月、2月、1月とつづきます。

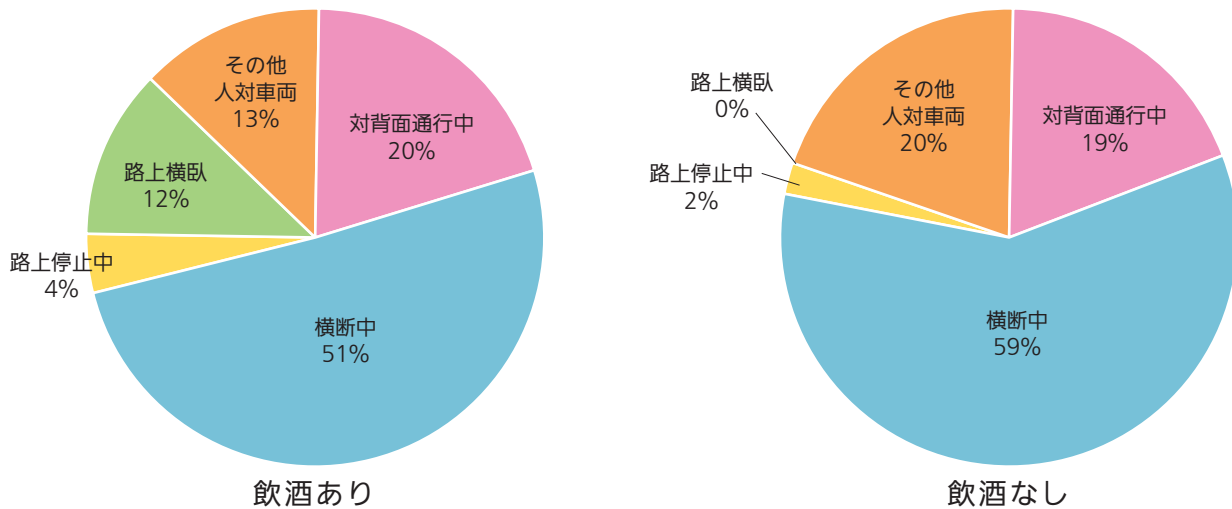


図6 歩行者飲酒有無別、事故時の行動別の割合(死傷事故)(2024年、1当+2当)

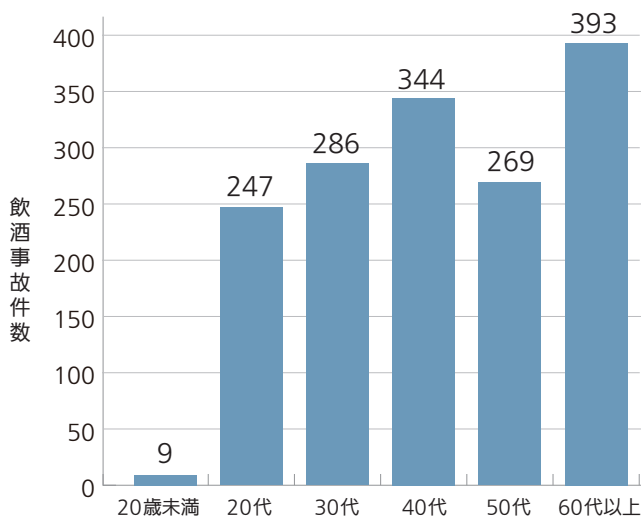


図7 歩行者の年齢層別の飲酒事故件数(死傷事故)(2024年、1当+2当)

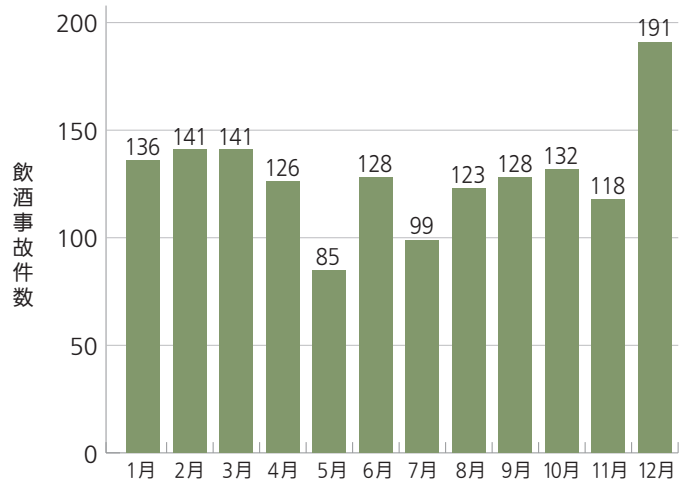


図8 歩行者の月別飲酒事故件数(死傷事故)(2024年、1当+2当)

